

愛知厚生連 渥美病院

- ほぼ半島全域を診療圏とする、地域中核病院の移転新築案件 -

外来診療における分かり易さの追求

1日1,000人を越える外来患者が利用する外来診療部での計画のポイントは、利用に際しての分かり易さを如何に確保するかにある。本計画では、外来の主動線をプロムナード1本に集約し、かつ移動に際して検査部の受付などが内部庭園のガラス越しに望めるという構成を採用した。分かり易さはいわば空間体験手順の単純化により創出される。この起点を単に風除室（主玄関）としないこと、つまり建物にアプローチし始めた段階で既に外来部門がそれとわかるよう、内部の構成を想像できるような特徴的な外観を与えるという配慮も行っている。

病棟サテライト・ステーションの運用

病棟構成に関しては、P P C 的な運営思想のもと、急性期病棟（47床うちH C U 6床）・一般病棟（55床）・慢性期病棟などの区分が設定されている。各病棟階は2看護単位で構成されており、L型の2つの病棟が中央コアを媒介に連結されるというスタイルである。L型の2本のウイングにはそれぞれその中央に、すなわちチーム制に対応した各病床群の重心に、直接看護の拠点（渥美病院ではサテライト・ステーションと呼称されている）を設置し、拠点から各病室までの看護動線距離の大幅な短縮を図った。

このサテライト・ステーションが設置された廊下は、その幅員寸法を潤沢に確保することにより、中央に看護拠点を持ついわば看護ホールのような趣きを持つ。日勤時はほとんどの業務（記録・清潔作業・不潔作業）をこのサテライトで行うことができ、看護単位の中に、30床弱の小看護単位が2つ包含されているような運用がなされている。

4床室の計画

本計画の4床室の起源は、1990年に設計をスタートした西神戸医療センター（1994年竣工）にある。4床室においても各々のベッドの個別環境に配慮した、いわゆる「個室的多床室」であるが、ここでは以下に挙げる点に配慮を加えている。

療養環境加算にかかわる病室面積、 8 m^2 /床を洗面・便所を含まずに純粋に病室エリアだけで確保する。ベッドの足元どうし、特に外部側の2ベッドの足元間隔を拡大する。病室に付属する患者用のトイレは、車椅子による利用や介助者同室に配慮した寸法を確保する。

（文責：川島浩孝）

所在地	愛知県渥美郡
病床数	316床
構造規模	鉄筋コンクリート造（免震構造） 地下1階 地上6階 塔屋 1階
延床面積	25,690 m^2
竣工	2000.05